

会議録

令和2年第1回

仙南地域広域行政事務組合
教育委員会定例会会議録

令和2年3月23日開議

令和2年第1回仙南地域広域行政事務組合教育委員会定例会会議録

1. 召集日時 令和2年3月23日（月） 午前10時
2. 召集場所 仙南芸術文化センター会議室
3. 出席委員 教育長 船迫邦則、委員 佐山富夫、委員 佐藤よし美、委員 阿部 誠、
委員 鈴木仁一
4. 欠席委員 なし
5. 説明のため出席した者
教育次長兼視聴覚教材センター所長 加藤雅章、
仙南芸術文化センター館長 玉淵博之、主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤 良、
主査 山田純土、主事 若林あい子

6. 開 会 午前10時

7. 令和元年第4回教育委員会定例会会議録の承認について

船迫教育長	会議録について承認を求めます。
(質 疑)	<ありません>との声
船迫教育長	質疑ないものと認め、会議録を承認します。

8. 会議録署名委員の指名

船迫教育長	私のほか、佐藤よし美委員にお願いいたします。
佐藤委員	はい。

9. 報 告

報告第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の就任について

仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の任命について、令和2年2月26日、当組合第246回議会定例会において、佐山富夫角田市教育委員会教育長を任命することに同意を得たことをご報告申し上げます。なお、佐山委員の任期は令和2年4月1日から令和6年3月31日までである。

(挨 拶)	
佐山委員	私にとって、二期目という形になります。教育の世界というのは本当に大変な時代を迎えているなど感じます。多様性もありますし、高度化というかそういう風な教育の社会になってきて、我々が追いついていくのが本当に大変だという実感があります。そういう中で、仙南地域広域行政事務組合の教育委員に、またご同意いただきましたけども、広域の教育のあり方を考えるうえで、私は非常に興味を持って活動を見ているんですけども、今のところ芸術文化等を中心になってやっているわけですけども、まだまだやはり可能性としては、今後どのように変わっていくかわからない社会の中であって、広域全体の教育を考えていくうえで非常に興味ある教育委員会の存在ではないかなと思っています。それらも含めてですね、ある意味ではこれからの教育の一つの提言ができるような活動が展開できれば。具体的にはなかなか難しいでしょうけど、我々の気持ちの中にそういうものを持って取り組んでいければ、楽しいかなと思っています。また続けさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

報告第2号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会の主な事業等の経過について

資料1にて、教育委員会事業については、黒澤主幹よりご報告申し上げます。

仙南芸術文化センター事業については、玉瀾館長よりご報告申し上げます。

(質 疑)	
佐山委員	5頁のレッスンの中の一番下で、修了式、27期生1名ってこれは。
黒澤主幹	今年度6年生が1名入っていましたので、1年間だけなんですけど、活動していただきまして、卒業した1名ということになります。4～6年生に対して募集をかけているものですから、そのような形となります。
船迫教育長	よろしいですか。他ございますか。
鈴木委員	6頁の心の鑑賞事業の「その他」のところですね。職場体験等の受け入れというところなんですけど、失礼しました8頁の、この受け入れなんですけど、主にどなたところに職場体験しているのかということと、それから希望での受け入れなのか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。
加藤次長	職場体験の受け入れというものに関しましては、近隣の学校から色々打診がありまして、職場体験をまず受け入れてもらえますか、というお話があったものに対して、えぞこホールとしては、まずホールの事業を知っていただくことも含めて、できるだけ積極的に受け入れをするといった方針で臨んでおります。その中で特に、大河原、村田、柴田の3町からの中学生のみなさんの受け入れが例年、数としては多いような状況となっております、こちらのホールに来ていただきまして、ホールを運営していくにあたって、どのようなことを職員がやっているのか、それこそなんでしょう、例えばですけども公演があって、その公演をみなさまにご案内するためにポスター、チラシを作る、そういったものの触りの部分を作る体験をしていただいたり、それからホールを維持するという意味では、ホール内の例えば清掃的なものもそうですし、あとは企画の分野で行けば、色々な事業に向けてホール内の掲示物とか、そういったものを作っていただいたり、ホールの事業全般にわたっての内容を体験していただくというようなことで、お出でいただいた生徒さんには、体験をしていただいているような状況です。
鈴木委員	はい、わかりました。ありがとうございました。
船迫教育長	感想なんていうのはありますか。この職場体験の。記憶にあるものを一つ、二つ。
玉瀾館長	ございます。そうですね、えぞこホールが単なるモノを呼んできて、ただやっているということではなくて、色々な地域との関わりとか、そういうものを一生懸命、積極的にやっているという、分からない仕事が意外と多かったという内容がかなり多く聞かれます。それと、やっぱりこう最近こういう子が増えているな、という印象があるのが、創造的な仕事をするっていう点で言うと、劇場で音響や照明や、そういう仕事をしてみたいということが多くなっている印象にあります。大河原町のアンケートでだったと思うんですが、クリエイティブな仕事っていうところに結構人数がいるんですね。たぶんもしかすると漫画とかアニメーターとかそういうのも含めるのかもしれないんですけど、劇場っていうところにも何人かそういうのを書いてくださっていて、このあたりはやっぱり地域でも浸透してきたかなと。10年～15年前まではほとんど無かったんですね、えぞこホールに来たいっていうような子どもたちがあまりいませんでしたし。まあそういう意味では浸透してきているのではないかなと思います。職業としても。

船迫教育長	はい、ありがとうございます。他ございますか。
佐山委員	角田でもね、田園ホール。そこに職場体験やらせてくださってというのができてね。これは芸術文化振興の主体を育てるっていうよりも、むしろ裏方役を育てる意味で非常に重要な、と私は思って積極的に受け入れてます。やっぱりね、そういうものに関心を持つっていうのも非常に大切かなとっているんでね。いい傾向だなと見ていますね。
玉淵館長	実際に補足で、東北共立さんっていう会社があるんですけど、そういうところを受けて、実際に入られた、まあその後どうなったか分からないですけど、そういう方もいます。過去にですけど。だいぶ歴史が長くなってきたので。
佐山委員	もう一つよろしいでしょうか。8頁の説明だったと思いますけど、企業の協賛金という話が出ましたよね。これ具体的にどのような形で協賛いただいているんですかね。
船迫教育長	はい、事務局お願いします。
玉淵館長	必ずしもではないんですけども、まあ一番情報を伝えやすいっていうのは、えざこホールに関わっている民間企業さんに対しては、比較的通知を出したりっていうのも出しやすいということもあるので。それから、こういうところに行ってみたらというような、ここの周りの、えざこホールは住民の交流が非常に盛んな場所なので、そういうところに行ってみたらという情報を得て、行ってみるとか。例えば、「もちぶた」ですね。あちらの方からもいただいていたとか、ここの建設に携わった八重樫さんとかも継続的にいただいているとか。あとはまあ、委託業者さんも比較的多くいただいているという傾向があります。あとはですね、ロータリークラブとか。3町内の。そういうところにこういう事業の説明に伺って、集まりが月1回ございますので、まあそういう時にこういう事業の取り組みをやっているんですっていうのを皆さまにお話しして。個人の方もいらっしゃいますし、小さくても会社の方からもいただいているということですね。
佐山委員	芸術文化振興にはね、やっぱりね、もっともっと企業がお金を出すべきだというのが私の考え方なんでね。進めていっていただければなと思いますね。
玉淵館長	さらに大きな企業に声がけをして、いただけるようにします。
	<質疑なし>

報告第3号 令和元年度仙南ふるさと C-M (コミュニティメディア) グランプリ (第42回仙南地区自作視聴覚教材発表会) の結果について

このことについて、黒澤主幹より資料2にてご報告申し上げます。

(質 疑)	
船迫教育長	10頁の昭和53、54年のときはね、文部大臣賞ですが、平成23年の時は文部「科学」大臣賞ですね。
黒澤主幹	文部「科学」大臣ですね。
船迫教育長	修正をよろしくお願いたします。
	<質疑なし>

報告第4号 AZ9 ジュニア・アクターズ第27回公演の結果について

このことについて、若林主事より資料3にてご報告申し上げます。

(質 疑)	
佐藤委員	感想ということで、本当にこう、今もお話しありましたけども、戊辰戦争とか北海道の開拓とかね。結構難しいテーマなので、どのように表現がされるのかなと興味深く見させていただいて。例えば名産品とかね、そういうものではないので、どういうふうに進めていくのかなと凄く思っていたんですが、最初にもわかりやすく提示したし、あとこけしとかニポポちゃんとかキャラクターというかシンボリックなものを使ったり、あとはアイヌの人々ですか。それとオオカミっていう思いがけないテーマというか、考えさせられるようなことを本当に子どもたちが、わかりやすく親しみやすいように、表現していたなと感じました。今もまた、感激が戻ってくるというか、あの姿を見ると本当に子どもたちがあそこまで表現するようになったレッスンですか、パンフレットを見せていただきましたけど、先輩たちの励ましとかね。あと台風の時に大変な思いをした時に、みんなで協力し合っただけとか。そういうものを乗り越えて、あそこまで発表できた喜びというのかな、それがこのステージを見て、思いました。本当に続けてほしい行事の一つですが、色んな予算面とかね、そういう難しいこともあると思うんですが、保護者の方々の話を聞いても、凄く良い効果があるのかなと、改めて思うことができました。ありがとうございました。
佐山委員	先ほどの説明の中で、ジュニア・アクターズの公演がね、多少どのように変わっていくかという話が出ましたけども、どういう方向性を持っているのか。あるいは、まだ具体的なものが無ければ、どういう方法でそういうものを探っていくのか。なにかあるんでしょうか。
加藤次長	この事業に関しましては、まずとにかく、続けたいというのがやはり我々事務局が一番にお伝えしたいこととさせていただきます。先ほど言いかけて止まってしまったんですけども、参加している子どもたちは当然ものすごく楽しんでやっています。それに対して、保護者の方っていうのが年間40回からのレッスンがあって、朝にお家の人がお弁当を作って、ここまで送ってきて、あとは夕方迎えに来る。それから公演が近づいてくれば、それを今度は衣装を作る、大道具を作るといことにご協力いただいている。その他にも単純にレッスンだけではなくて、アウトリーチという形で先ほどご報告申し上げましたけれども、色んな場所に向かい出向いて行ってる。これについても例えば、白石でやりますと言いましたら、白石の方まで送迎していただいている。反省会の中の意見として、こういったアウトリーチがたくさんあるということで、大変だという意見がもっと出てくると思っていたんですが、まあアンケートとかもそうですし、その場での言葉の中でも、たくさんアウトリーチの場を設けてもらって本当に良い経験をさせてもらったと。こういうのをもっともっと広げていくべきだ、という意見までいただいている状態です。それで修了式とか結成式とか色んな場で申し上げているんですが、AZ9の事業というのは、なんでしょう、子どもたちの居場所として、やっぱり家庭と学校というのがものすごく大きな場だと思うんですね。まあ悪い方面にばかり目を向ければキリがないんですが、家庭の中で、まあ悪い例として、虐待を受けているようなご家庭もあつたりなんかすると思いますし、学校でもいじめの問題があつたりする。その中で、家庭でも学校でもない居場所というのが一つあ

	<p>るといのがものすごく、子どもたちにとって大きな意味があると私は考えています。特に、例えば以前にもお話し申し上げたかもしれないんですけども、スポーツ方面であればスポーツ少年団、野球にしてもサッカーにしても結構どこの町にも色んなそういった組織がある。その一方で、じゃあしからば、スポーツ方面ではない方向で、やりたいことがあるという子どもたちを考えたときに、ピアノとかバレエとか習い事で先生に付くってというようなものは結構あるんですけども、みんなで、グループで一緒に作り上げていくって文化方面の活動って意外と私、少ないんじゃないかと思っております。そういった意味でも、家庭でもない、学校でもない、まして仙南地域の中で例えば2市7町という括りにはなってしまうんですけども、その中で本来だったら触れることのなかった知り合い、友達が出来て行って、その中で自分たちが何かを作り上げていく経験っていうのは、非常に意味があるんじゃないか、その中で色々な居場所があっというふうなと思うんです。そういった居場所が、たくさん増えていけばいいっていうふうに思っておりますけども、その中の一つとしてやはりAZ9っていうのは、これからも続けていきたいなと考えております。まあその上で今後どのようにしていくかということなんですが、まず一番の要素として、これまで事業を継続してきた中で、ふるさと市町村圏基金という財源から生まれてくるお金で事業を実施してきた。これについてはご承知のとおり、もう金利が、マイナス金利という話も出てきているような、国も地方も含めてそういった財政状況の中を考えますと、もうこれに頼って事業をやっていくのは現実的ではない。それを、ではどうやって継続していくかと考えたときに、まず事業としてこれまでかけてきたものよりもやはり圧縮しなければならぬ部分は当然出てくるかと思えます。それについては我々が知恵を絞って、圧縮していかなければならない。なおかつその上で、例えば先ほど、え、このサンタプロジェクトみたいなものもございましたけども、例えば色んな企業から協賛金をいただくとか、あとはなんでしょう、色々な団体に対して助成金の申請をするというような形で財源を確保したりとか。こういったことも取り組んでいく必要があるとは思っています。そういった中で、なお一番は仙南2市7町のそれぞれの市町から負担金をいただいて組合は事業を組んでいくところでもございますので、この事業の価値というものを丁寧に説明させていただいて、その中で負担金という形で、なんとかこの事業を継続させていただくことにご協力、ご理解をいただけないでしょうかというような、当然これもお願いしていかなければいけないと思っております。とにかく使える手は何でも使って、まあ地域の子どものための居場所の一つを担保していきたいというのが私どもの考えでございます。</p>
船迫教育長	基金では、どのくらい持つっていう見込みなんですって。
加藤次長	基金で持つのが30回公演までという、はい。
阿部委員	<p>私、初めてAZ9の公演を見させていただいたんですけども、非常に感動しました。よく修学旅行で引率してですね、ライオンキングなんか見たりするんですけども、ああいうのと同じような感動を実際感じました。素晴らしいなと。子どもたちがわずかな期間で、あれだけ表現できるのは素晴らしいと感じました。最近では学習発表会なんかに行きますと、大体、合唱コンクールになっているんですね。もう音楽コンクールのような形で。まあ実習の関係とかも色々あるんですけども、演劇をとおして身体で表現するっていうことが少なくなっていると思う</p>

	<p>んです。大道具、小道具とか、裏方の仕事とかね、そういったものを学んで、非常に成長していくような感じを受けたんですけども、まあ先ほどお話出ましたけども、スポーツとかそういう単独でやる活動と違って、集団で達成する喜びというんですかね、あれは本当に素晴らしい事業だなと思いました。先ほど、よし美先生からも出ましたけども、仙南2市7町のですね、歴史を題材にして演劇にしたと、これも非常に価値があることだと感じました。本当に継続してですね、素晴らしいAZ9が続くように祈っております。</p>
<p>佐山委員</p>	<p>方向性とかなんかっていうのは分かりましたけども、実はですね、親がなんでこれだけ苦勞して続けていられるのか、OBも同じなんですけどね。終わって、またなおかつという形で。これね、やはり、芸術活動の価値を我々はまだ、気付かないところがあるんじゃないかと思うんですよ。これをもっともっと問い続けていく、親もOBも、やっている子どもたちもそうなんでしょうけど。やっぱり、なんでこれ続けたいの、どんな価値があるのみたいな、常に問い続けていく必要があるんじゃないかと。新しい芸術活動の可能性というか、このAZ9のこれまでやってきた中に、段々育ちつつあると思っているんですけども。私なんかは実は、世の中がどんどん変わっていく中で、これまでの学校教育っていうのは知性の教育だったんですよ。そうではなくて、これからは、それも大切なんですけど、感性の教育っていうのがやっぱりバランス良くとれていかなければならないっていうのが、私の持論として持っているんですけども。そういうことを考えればね、やはり、「あれは金を持っている人が、暇がある時に見るものだろう」という芸術鑑賞の仕方っていうのは、意外と一般の人たちにはあつたんですよ。それからピアノを習うにしたって、金が無ければ習わせられないというような。金持ちだけがやればいいんだというようなところがあつたんですけど、そうではない、芸術のそれこそ一般的な機能みたいなのをですね、我々が気付き、広めて行かないといけないんじゃないかと思うんですね。これはこれからの生きる力、学校の中で育てている生きる力というのがあるんですが、実は私の新しい理屈なんです、今までは学校教育は、生きる力っていうのでね、要するに生活力だったんですよ。経済基盤を基にした、子ども達にね、どんな社会になっても生きていけるような。これからはそうではない、私は生活力ではなく生存力ではないかという考え方に傾いているんですよ。生活力はいくまでも経済的な基盤があつて、それでやっていこうとする考え方ですけども、これからの世の中は生きていけないんじゃないかなってことで、じゃあなんだっていう時に、生存力という言葉が閃いてきたんですけどね。そういうものを育てていくためにはね、知性の教育と感性の教育をバランスよく育てていくことがやはり必要なんじゃないかと。そういう意味からすると、ここに出てきている親たちが感じているものってそういうものかなと。子どもたち、これまでの学校教育だけで育てていったんでは生きていけない。こういう活動の中で育てなければならぬ力がやはりあるんだ、ということに気付いて、だから苦勞してもやっついこうという考え方が、言葉としては分からないけども、感覚的にそういうものに気付いてきているんじゃないかなと思うんですよ。今回も1,316名ということで段々増えてきているのでね、いい傾向だなと思っております。みなさんが、なにか分からないけど大切だよな、これまでの芸術鑑賞とは違うよな、体験させることによって子どもたちが何を学んでいくのかっていうものにどんどん増えていけばね、まあ30回で終わりということには多分ならないんじゃないかと。どこからか金が出てくるんじゃないかと思うんで</p>

	すね。そういうことを方向性としてね、やった方々のそういう感想とか、今回まとめていただいて、大変良いことでないかなと。それをやはり広めて行って、そうかもしれないなっていう人を増やしていかなくちゃならないんじゃないかと感じました。そういう意味では非常に期待してます、私なんかはね。これからよろしくをお願いします。
船迫教育長	はい、他ございますか。他のところでの子どもたちの表現活動というか、テレビなんか見ているとあるんですけども、県内はどれくらいあるんですか。
加藤次長	地域の子どもたちが参加して作るというものですと、一番仙南に近いところと言いますと、名取の、こどもミュージカルというものがございます、はい。それから、このえぞこホールと同じような形で、七ヶ浜に七ヶ浜国際村という施設がございまして、ここにN a N a 5 9 3 1という、やはりグループがあって、こちらはどちらかという、なんでしょう、少しミュージカルというかバレエとかそういった系統に寄った内容ですけれども。これも同様の活動をしていらっしゃると思います。それからこれもえぞこホールと同様の施設で、県の方が整備された施設の方を使っていらっしゃるけれども、登米祝祭劇場。こちらの方でも、ドリーム☆キッズという団体がございまして、同様に活動していらっしゃいます。いずれのところもやはり、それぞれ活動をしている保護者の方たち、こういった方たちとOBもだと思っておりますが、そういった方たちが精力的に活動して、子どもたちを支えて、やっているような事業になっております。
船迫教育長	他の地域の財源作りっていうのがね、ある意味で、情報交換していくと参考になったりするかもしれませんので、ぜひ情報収集お願いしたいと思います。
佐山委員	そういう話し合いとかはないんですか、連絡協議会みたいな形で。
加藤次長	残念ながらそういった形で事務方が、膝詰めで色々情報交換するということには行ってないんですが、それぞれの公演の交流ということで、そこの子どもたちが私どものAZ9の公演ですと、名取こどもミュージカルですとか、登米祝祭劇場の方から、保護者も含めて公演を見に来ていただいて、私どもの方でも逆に先方の公演を見に行き、という形での交流はこれまでもやっておりますので、今お話しいただきました、事務方として存続というか、活動をより良いものにするためっていう部分も含めて、どのような取り組みをしているかっていう交流とか情報交換っていうのは確かに今後、もっと仕掛けていこうかなというふうに、今お教えいただいたような方向で進めていきたいと思っております。
	<質疑なし>

報告第5号 仙南芸術文化センターに係る公文書開示請求並びに議会での質疑等について

このことについて、加藤次長より別紙資料4にてご報告申し上げます。

(質 疑)	
佐山委員	劣化診断とかは終わってるんですけど。建物全体の。
加藤次長	実は、東日本大震災が終わりました後に、一段落したタイミングで、建設した業者さんの方に来ていただいて、その上で、基本的に建物についてはほぼ問題ないということ、まあこのまま使っていて全然問題ないというお話はいただいております。今回の機能維持修繕計画というのは、施設の基幹設備、音響であるとか照明であるとか、舞台機構、それから観客、お客さんに快適に過ごしていただくた

	めの空調設備ですとか、こういったものが主な設備となっております、これらにつきましては、業者さんの方に維持管理をお願いしているんですけども、その中で更新時期になっていて、部品供給も断たれるような状況になっている、今やっておかないと我々としても動作の保証ができないところまで来ているよ、というようなご指摘はいただいているというのが実情でございます。
	<質疑なし>

10. 議 事

議案第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について

このことについて、山田主査より資料5にてご説明申し上げます。

(質 疑)	<質疑なし>
---------	--------

11. 協 議

○次回の教育委員会定例会の日程について

船迫教育長	令和2年5月29日午前10時から、次回の定例会を実施いたします。
-------	----------------------------------

12. その 他

(1) 令和2年度仙南地域広域行政事務組合教育費当初予算について

このことについて、山田主査より別紙資料6にてご説明申し上げます。

(質 疑)	<質疑なし>
---------	--------

(2) 令和2年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計当初予算について

このことについて、玉渕館長より別紙資料7にてご説明申し上げます。

(質 疑)	<質疑なし>
---------	--------

(3) 令和2年4月1日付けの人事異動について

このことについて、加藤次長よりご説明申し上げます。

(質 疑)	<質疑なし>
---------	--------

13. 閉 会 午後12時3分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

令和2年3月23日

教 育 長

署名委員